

# 地域医療連携センターニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携センター

電話 042-558-0321(代表)

FAX 042-550-5190(直通)

## 新年のご挨拶



公立阿伎留医療センター

企業長・院長 荒川 泰行

謹んで新春のお慶びを申し上げます

昨年中はいろいろとお世話様になり心より御礼を申し上げます。

新しい年が皆様にとりましても、また地域にとりましても素晴らしい一年になりますようお祈り申し上げます。

私どもも、地域の医療・介護・健康戦略の革新を目指して地域包括ケアシステムの推進と地域の多職種連携の絆の構築になお一層邁進致しますので、本年もどうぞ宜しくお願い致します。

地域包括ケア時代を迎えて

地域の医療・介護連携の構築と多職種協働・教育の推進が鍵

人口減、少子高齢化が進展する中で、人口構成が「3人に1人」が65歳以上、「5人に1人」が75歳以上になり、生産年齢人口の減少と多死社会が進展するに伴って、いわゆる「胴上げ型」社会、「騎馬戦型」社会、さらに「肩車型」社会の到来の懸念とともに、国民の高齢者医療や介護の需要が一段と増加することが問題視されるようになりました。このような高齢者医療が重きをなすわが国の医療の未来にどう向き合っていくか、地域にあってはステークホルダーである医療、介護、保健、さらに行政がゴールと課題を共有して連携を強固なものにしていかなければ地域包括ケアシステムを柱とする「地域共生社会」を創造することは難しくなります。

今日、社会保障と税の一体改革と国の医療費抑制策における超高齢者対応型の「2025年社会モデル」の実現に向けて、保険者である市町村や都道府県が「地域医療構想」に基づいて誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることを可能にし、高度急性期から在宅までの一連の医療・介護サービス・介護予防を地域において総合的に確保する「地域包括ケアシステム」の構築が進められています。この地域包括ケアシステムの構築には、「専門職による『医療・看護』『介護・リハビリテーション』『保健・予防』が効果的な役目を果たす」ことが期待されていますので、地域での施設や地域包括ケアのキーパーソンとなる専門職の壁を越えて学ぶ多職種協働の実践や教育

研修の場（IPW：Inter-Professional Work、IPE：Inter-Professional Education）が不可欠であると考えております。

秋川流域で急がれる「地域包括ケアシステム」の展開であります。が、「病院完結型」から、地域全体で患者を診る「地域完結型」、「在宅医療」へと医療提供体制への転換が求められるようになりましたので、医療と介護の切れ目ないサービス、また「自助、互助、共助、公助」の効率的な組み合わせが大事になります。今後このような医療政策動向の転換と医療環境を巡る大きな変化の中で、地域の医療・介護・健康分野における多職種連携を一層推進して“地域社会の健康処方箋”を描くことは極めて重要な課題となってきていると認識しております。

## 激変する医療環境の変化の時代を迎えて 今年も地域医療を支える公立病院として頑張ります

平素より秋川流域の医療・介護施設の関係の皆様方には、公立阿伎留医療センターの地域医療連携の推進にいろいろとご支援・ご協力を賜り心から厚く御礼を申し上げます。

私ども公立阿伎留医療センターは、病院の理念と基本方針に基づいて「三方よしの医療（患者よし、世間よし、病院よし）」を実践しておりますが、日本医療機能評価機構から「より良い医療を提供する適正な病院 3rdG:Ver. 1.1」として認定されています。また、「地域医療構想」による病床機能分化・連携と「2025年社会モデル」における必要病床数の議論を踏まえて、2016年7月から地域包括ケア病棟43床を開設し、一般急性期医療（206床）を核として、回復期リハビリテーション（45床）、地域包括ケア病棟（43床）、緩和ケア病棟（16床）の総数310床を擁する急性期・ケアミックス型の総合病院として利用者から信頼され、かつ選ばれる病院を目指して職員一同頑張っております。

医療はライフラインの重要な一部であり、病院は地域との関わりをなくしては存在できませんので、地域住民の厚生全般への寄与が重要であると認識しております。本年は6年毎に行われる医療と介護報酬の同時改定の年にあたり医療費抑制のさらなる逆風が予想されています。今後、病院を取り巻く環境と背景が深刻化し、これに伴って秋川流域の医療と介護の需要と供給体制も大きく様変わりをしていくものと思います。しかし、この変化をチャンスとして捉えて、「介護のない医療はなし。医療のない介護もなし。」「少し入院、長く在宅」のコンセプトのもと、医療の標準化と透明性を確保するとともに、患者さん中心の医療の質向上と医療資源の有効活用をより一層深化・発展させることに努めて、地域と時代のニーズに応えながら地域医療を支える公立病院としての役割を果たして参る所存です。

## 平成29年度登録歯科医・登録歯科医・地域医師会先生方との情報交換会について

公立阿伎留医療センターでは、登録医・登録歯科医・地域医師会先生方との医療連携推進を目的とした情報交換会を開催しております。本年度は平成29年11月13日（月）19時30分より、あきる野ルピア3階ホールにて開催され、地域医療機関の関係者の方20名にご出席いただきました。

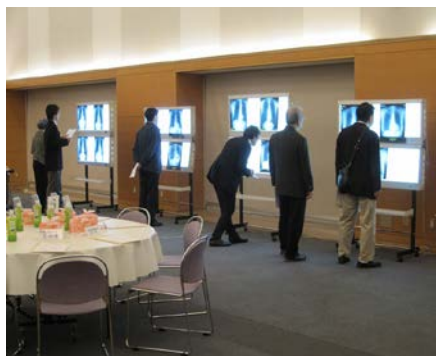
まず、センター長より開会の辞、院長挨拶に続き、呼吸器外科部長三浦弘之医師による、「胸部X線読影法 ～見逃さないための check point～」をテーマとした講演を行いました。会場にシャウカステンを搬入し、あらかじめ実際のX線写真を見ていただき、推定病名を用紙に記入、続いて病理所見と共に解説するという今までにない形態で進行し、大変ご好評をいただきました。

また、あきる野市医師会長の下村 智先生及び秋川歯科医師会副会長の大塚秀男先生より、ご挨拶をいただきました。

先生方からは、逆紹介に対する取り組みや施設入所者の受け入れなど様々な貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。今後とも、地域医療連携センター職員を中心に、課題解決に取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



症例発表・講演会



呼吸器外科部長  
三浦弘之先生



あきる野市医師会  
会長 下村 智先生



秋川歯科医師会  
副会長 大塚 秀男先生



荒川院長 挨拶



## 第1回公立病院と訪問看護ステーションの連携を深める会について

平成29年11月2日（木）の18時30分より当院の講堂において、地域の訪問看護ステーションの皆さんとの連携を深める会を開催いたしました。毎年東京都訪問看護ステーション協会西多摩支部が西多摩3公立病院の看護師を対象に、1日体験研修を実施しております。その経験を今後どう活かすべきかとの課題の中で、顔の見える連携の必要性から開催に至りました。当日は、訪問看護ステーションの看護師他関係者の方々25名、当院看護師及びMSW合計28名が出席し、活発な意見交換が行われました。今後も定期的を開催し、病院と訪問看護ステーションそれぞれの立場から、連携を推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

最後に、開催に至るまで様々なご協力いただいた梅の園訪問看護ステーションの安藤看護師さんにもお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 「手作りコンサート」について

例年12月初めの恒例行事である手作りコンサートが、12月9日（土）の午後2時から1階エントランスホールにて、開催されました。循環器内科部長松永先生、橋本芳さんによるオペラ歌唱、大正琴の演奏、お囃子演奏の3部制で行われ、入院患者さんが音色に合わせて、手拍子をしたり、一緒に歌ったりして、楽しんでいました。患者さんのご家族の方々や患者さん搬送のボランティア職員を含め約180人の参加となり、華やかなひと時となりました。



オペラ歌唱（バリトン）松永 洋一先生



扇靖流あきる野琴の会のみなさん

地域医療連携センターニュースの内容などについては、蓑島（副センター長・看護師）、神田（事務担当）までお問合せください。電話 042-（558）-0321（代表） FAX 042-（550）-5190